

1 基本情報

| | | | | | | | | | |
|-----|-------------------------|-------|------|-------|-----|--------------|-------|--|--|
| 施策名 | 1 - 1 ゆとりある暮らしを支えるまちづくり | | | | 戦略名 | 若い世代定住プロジェクト | | | |
| 担当 | 主担当部 | 都市建設部 | 主担当課 | 都市計画課 | | | | | |
| | 部長名 | 小林 茂輝 | 関係課 | 建築宅地課 | 道路課 | 環境課 | 生涯学習課 | | |

2 取組目標 (Plan)

| | |
|------|--|
| 取組目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●市街地や集落地などが緑や田園空間に包まれ、ゆとりの環境や都心へのアクセスが良いという特性を活かし、子どもや若い世代が白井らしい豊かな暮らしを楽しめる環境を整えていきます。 ●みどりの中にある文化資源を活かし、若い世代も含めて白井市の魅力を感じる、ゆとりある良好な暮らしの実現を目指します。 |
|------|--|

3 平成29年度取組状況 (Do①)

取組1 若い世代が魅力を感じるゆとりある住環境整備の促進

| | | | | | |
|------|--|--------------|---------|-----|----|
| 取組方針 | 民間企業等と連携した住宅のリノベーション支援や菜園等が近接した良質な住宅の供給を促進します。 | | | | |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や開発事業者等が地域の状況に応じ良質な住環境を保全・開発する計画の提案がしやすいようにまちづくり条例を改正し、市街化区域1地区・市街化調整区域1地区で地区まちづくり計画を策定した。 ・桜台地区における千葉NT事業区域内の未処分地において、業務系用地を住宅系用地に誘導するための都市計画変更（地区計画）を行った。 ・市街化調整区域において、商業施設、保育・子育て施設の誘導を図る地区計画（根公益的施設誘導地区地区計画）の策定手続きを行っている。（平成30年度継続） ・平成28年度から、子育てや介護の面で互いに助け合える近居・同居のメリットに着目し、市内の親世帯と近居・同居を目的に住宅の新築・購入・増築等を行う若い世代に対して補助金を交付する親元同居近居支援補助金制度を実施しており、平成29年度は32世帯に対して補助金を交付した。 ・UR賃貸住宅（近居割WIDE）と共同でチラシを作成しPR活動を行った。 | | | | |
| 構成事業 | 事業名 | 評価 | 事業No | 事業名 | 評価 |
| | 1 | ゆとりある住環境整備事業 | 現状のまま継続 | | |
| 2 | 近居推進事業 | 改善して継続 | | | |

取組2 子ども連れで外出しやすい道路や公園・広場などの機能整備

| | | | | | | |
|------|---|------------|---------|------|-----|----|
| 取組方針 | 公共施設のバリアフリー化を進めるとともに、公園・広場に子育ての場としての機能を整備し、利用しやすい環境をつくりま | | | | | |
| 取組内容 | す。 | | | | | |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・公園施設や遊具の機能維持を図るため長寿命化計画を策定することとし、平成30年度に予備調査を行うこととした。 ・歩道の段差、勾配改良工事4箇所を実施した。また、駅周辺等の主要箇所の整備が終了し、残りの整備対象箇所は広域に点在しているため、道路の利用状況を踏まえて、舗装修繕工事等他事業に併せて効率的に整備していくこととした。 | | | | | |
| 構成事業 | 事業No | 事業名 | 評価 | 事業No | 事業名 | 評価 |
| | 3 | 公園施設環境整備事業 | 現状のまま継続 | | | |
| 4 | 道路環境整備事業 | 終了（30年度） | | | | |

取組3 みどりや文化資源などを活用した魅力ある暮らしの促進

| | | | | | | |
|------|--|------------------|---------|------|-----|----|
| 取組方針 | 市民団体等と連携しながら、若い世代がみどりやその中にある歴史や文化資源の魅力を発見できる機会をつくりま | | | | | |
| 取組内容 | す。 | | | | | |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料館や文化センター脇の森林に謎解きポイントを設けて、子どもたちが謎を解きながらゲームを進める中で、白井のみどりや歴史・文化に触れ合えるイベント「ナゾキウォーキング」を企画し、ときめきマルシェと同日に実施した。 ・東京大学空間情報科学センターと協働し、文化財所有者等の市民の協力を得て、GPSを利用して市民の身近な歴史や文化資源を紹介する「白井旬マップ」「白井散策マップPro」の2つのiPhoneアプリを作成し、無料配信した。 | | | | | |
| 構成事業 | 事業No | 事業名 | 評価 | 事業No | 事業名 | 評価 |
| | 5 | みどりと歴史文化の魅力づくり事業 | 現状のまま継続 | | | |

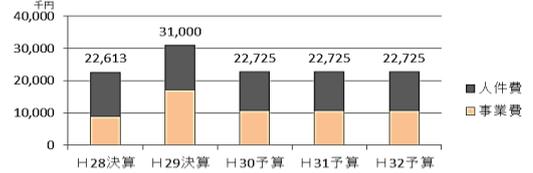
4 施策展開の状況 (Do②)

| | |
|-------------|--|
| 改善した取組 | 公園機能の維持に向けて、公園施設等の計画的な修繕を進めるため、スケジュールどおり平成30年度から長寿命化計画の策定に着手することとした。 |
| 他分野・他施策との連携 | |

5 施策推進コスト(Do③)

(千円、%)

| | H28決算 | H29決算 | H30予算 | H31予算 | H32予算 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 事業費 | 8,825 | 17,089 | 10,801 | 10,801 | 10,801 |
| 人件費 | 13,788 | 13,911 | 11,924 | 11,924 | 11,924 |
| 合計 | 22,613 | 31,000 | 22,725 | 22,725 | 22,725 |
| プロジェクト内割合 | 5.2 | 7.5 | 5.1 | 3.6 | 4.1 |



6 1次評価(Check①&Action①)

| 定量的評価 | 施策指標名 | 単位 | 基準値/基準年度 | | 目標値 | 実績値 | | | | |
|---------------|--|----|----------|---|-------|-------|---|-------|-------|-------|
| | | | | | H32年度 | H28年度 | H29年度 | H30年度 | H31年度 | H32年度 |
| | 若い世代が暮らしやすいまちと思う若い世代の割合 | % | 64.6 | (H26) | 72.7 | 72.7 | 65.5 | | | |
| | 快適に暮らせる住環境が整っていると思う若い世代の割合 | % | - | - | 64.0 | 57.6 | 60.9 | | | |
| | 親子で外出しやすい環境が整っていると思う若い世代の割合 | % | - | - | 61.0 | 51.7 | 38.9 | | | |
| | 白井のみどりの環境に満足する若い世代の割合 | % | - | - | 72.8 | 72.8 | 82.6 | | | |
| | 白井の文化資源に満足する若い世代の割合 | % | - | - | 62.0 | 54.6 | 47.8 | | | |
| 定性的評価 | <p>ゆとりある暮らしに対する満足度を上げていく取組は時間がかかり中長期的な視点が求められる。前年度に策定した「市街化調整区域における地区計画の運用基準」や「まちづくり条例」などによる土地利用誘導や都市施設（道路・公園等）の整備、若い世代の定住のインセンティブである「親元同居近居支援補助金制度」の実施や各種イベントを通じた白井らしさの魅力を発信することなどに連携して取り組んだ。</p> | | | | | 進捗状況 | <input type="checkbox"/> 順調 <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調 <input type="checkbox"/> やや遅れている <input type="checkbox"/> 遅れている | | | |
| 課題 | 喫緊の課題 | | | 中長期的な課題 | | | | | | |
| | <p>公園や道路等の既存ストックについて、費用対効果を勘案しながら効率的な機能の維持・向上を図る必要がある。なお、歩道のバリアフリー化（歩道段差・勾配改良等）は、駅周辺等の主要箇所は終了し、残りの整備対象箇所は広域に点在するため、舗装修繕工事等に併せて随時整備することとした。</p> | | | <p>公園や道路の整備には、多額の費用がかかる。また、魅力ある住環境を形成・維持し、まちの魅力を高めていくためには、地域住民自身が身近な住環境に関する意識を高め、必要なルールづくりを進めていける環境をつくっていくことが必要である。</p> | | | | | | |
| 施策の方向性(改善策) | 短期的な方向性 | | | 中長期的な方向性 | | | | | | |
| | <p>公園は、公共施設等総合管理計画との整合を図りながら、長寿命化計画の策定に取り組む。また、歩道のバリアフリー化（歩道段差・勾配改良等）は、駅周辺等の主要箇所は終了し、残りの整備対象箇所は広域に点在するため、舗装修繕工事等に併せて随時整備することとした。</p> | | | <p>公園や道路の利用状況や各拠点の都市機能、地域の人口構成などを踏まえ、地域の特性に応じた公園や道路の整備を進める。市民自らが地域のルールづくりを進めていけるよう、地区計画等の制度を分かりやすく周知し、市民や事業者などの地域住民の参画を促す環境整備を行う。</p> | | | | | | |
| 施策を取り巻く環境の変化 | <p>・人口減少・高齢化社会を迎え、コンパクトシティ化や住宅ストックを有効に活用した居住環境の維持・向上が求められている。</p> | | | | | | | | | |
| 市民と行政の役割分担・協働 | <p><input type="checkbox"/> 行政の役割を拡大 <input type="checkbox"/> 現在の行政と市民の役割分担・協働を維持 <input checked="" type="checkbox"/> 市民の役割・協働を拡大</p> <p>・都市施設（道路・公園など）の運営や維持管理などは、自らの地域への愛着や地域活力の向上を図るため、民間活力の活用や地域住民の主体的な取組が必要である。</p> <p>・市民団体等と協働でみどりや文化資源の魅力に触れ合える機会を創出しているが、将来的には市民や市民団体等が主体的に担っていくことが必要である。</p> | | | | | | | | | |

7 2次評価(Check②&Action②)

白井市行政評価委員会による評価

- ・地域のルールづくりに当たっては、若い世代から高齢者まで多様な世代が参画できるよう努めること。
- ・道路や公園等については、安全性を最優先して整備を進めること。また、事業費が多額となることから、必要性や財政面を考慮し、事業費の平準化を図りながら、計画的な整備に努めること。
- ・少数の市民のデータではあるが、定量的評価における市民の満足度等が低下していることから、今後の市民の意向等を注視していくこと。

8 3次評価(Check③&Action③)

総合計画審議会による評価

平成29年度に3次評価を実施済みである。

9 3次評価の改善意見等への対応